

PCR等の検査体制の更なる強化について

令和2年5月15日
加藤臨時議員提出資料

PCR等の検査体制の更なる強化について

- PCR検査は、感染者を早期に発見し感染拡大を防ぐとともに、重症者や死亡者の発生を最小限に抑えることを目的として実施。そうした中、これまで我が国では、欧米に見られた感染爆発(オーバーシュート)を回避するとともに、死亡者の発生も諸外国に比べ低い水準で推移。
- 現在、PCRの検査能力は約22,000件/日に向上。加えて、世界に先駆けて抗原検査(約26,000件/日)を導入。今後、PCR検査と抗原検査の最適な組合せによる迅速かつ効率的な検査体制の構築をめざす。
- この検査能力を最大限に活かすため、相談、受診、検体採取、検査という一連のプロセスの各段階に目詰まりがないよう点検し、特に検体採取(鼻咽頭のぬぐい)については積極的に新しい技術を活用するなどにより対策を強化。
- さらに、今後、感染が大きく拡大する局面においても確実に検査を行えるよう、検査能力の更なる拡充を図り、国民の安心を確保。

【現在の検査能力】

- ☆PCR検査の検査能力
: 約22,000件/日(現在)
- ☆抗原検査の供給能力
: 約26,000件/日(6月以降)

※現時点では、抗原検査がPCR検査を直ちに代替するものではないため、検査能力は単純に合計できない点に留意

⇒両者の最適な組合せによる迅速かつ効率的な検査体制を構築

☆ 抗体検査については、集団全体の感染状況を確認するためのものとして活用

【検体採取に関する対策の強化】

- ・ドライブスルー方式の導入や検体採取に特化した地域外来・検査センターの設置
- ・唾液を用いたPCR検査など、より効率的で安全な方法の実用化
- ・多職種を含む人材の活用

【検査能力の向上】

- ・民間検査機関等の活用
- ・新たな技術の導入(全自動PCR検査機器など)による効率化
- ・試薬の買取保証や病院等の検査機器購入の支援

※ このほか、国内で感染が収束した場合でも海外の流行国から再びウイルスが持ち込まれることをできる限り防ぐよう、引き続き検疫を確実に実施

- ・医師が必要と判断した場合に速やかに検査を実施
- ・患者や医療従事者を守る院内クラスター対策も強化

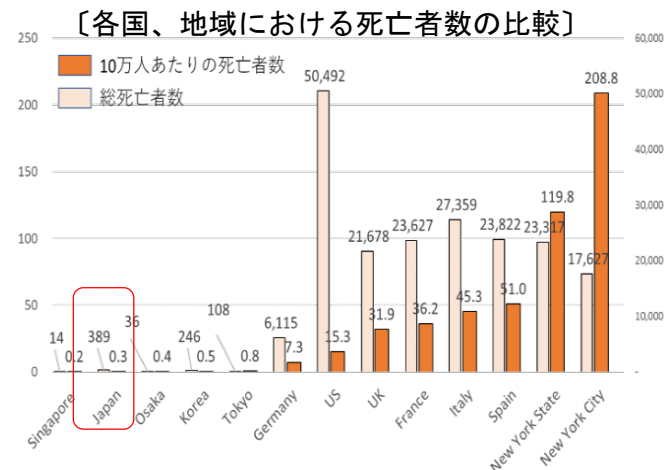
感染が大きく拡大する局面においても検査能力のフル稼働により対応

參考資料

(参考1) PCR検査について

PCR検査の役割

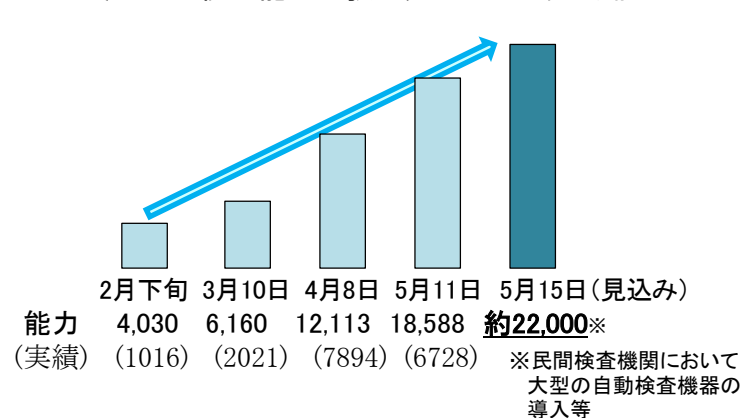
- **感染拡大を防ぎ**、医療崩壊の回避、社会・経済機能への影響を最小限に抑える
⇒陽性患者を早期に把握するとともに、濃厚接触者等の検査を行い、クラスターの連鎖を防止
- **重症者や死亡者の発生を最小限に抑える**
⇒医師が必要と判断した者に確実に検査を行い、治療に結びつける



〔東京都における陽性率の推移(東京都HP)〕



〔PCR検査能力の強化〕 ※1日あたり能力



各段階に応じた課題への対応

《主な課題》

《対応の方向》

《課題解決に向け、以下のような取組みを実施》

相談 保健所の業務過多

保健所の機能強化

保健所の全庁的な体制強化、大幅な業務軽減、業務の外部委託

受診・検体採取 採取機関 人材 感染防護具 の不足

地域外来・検査センターの拡充 幅広い人材の活用 感染防護具の確保

ドライブスルー方式導入、検体採取特化の地域外来・検査センター設置 歯科医師等の活用 感染防護具の国からの配布

検査 検査機関のキャパシティ不足

地方衛生研究所、民間検査機関等の強化、試薬の確保

地方衛生研究所の検査体制の強化、民間検査機関等の活用、病院等における検査機器の購入支援、試薬の国による買取保証

入院等 陽性者の入院先等の不足

患者が療養する病床等の拡大

患者が療養する病床やホテルの受入れ枠の拡大

(参考2)PCR検査と抗原検査

	PCR検査	抗原検査	抗体検査 (参考)
検査内容	<p>ウイルスの遺伝子を増幅させてその量を測定</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>検体採取 ↓ (搬送) ↓ 前処理 ↓ 検査 ↓ 判定</p> </div> <p>※鼻咽頭ぬぐい液</p> <p>※専門技師が必要</p> <p>※機器、試薬が必要</p>	<p>ウイルスのタンパク質 (抗原) に反応する抗体を用いて測定</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>検体採取 ↓ 判定</p> </div> <p>※鼻咽頭ぬぐい液</p> <p>※その場で結果判明 (検査キットで簡便に)</p>	<p>ウイルス感染後に生体内で産生される抗体を測定</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>検体採取 ↓ 判定</p> </div> <p>※採血</p> <p>※その場で結果判明 (検査キットで簡便に)</p>
検査時間	<p>4～6時間 (時短PCR: 1～2時間) ※このほか搬送等に時間が必要</p>	<p>30分</p>	<p>15分</p>
感度	<p>少量のウイルス量で検出が可能 ※7割程度の検出率といわれている</p>	<p>PCR検査と比べ一定以上のウイルス量が必要 ※PCR検査の9割程度の感度</p>	<p>性能評価中 ※国内で承認された品目はない</p>
用途	<ul style="list-style-type: none"> 確定診断 治療経過のフォロー 陰性診断 	<ul style="list-style-type: none"> 早期診断 スクリーニング検査 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[想定される使用法]</p> <ul style="list-style-type: none"> 帰国者接触者外来や検査センター等における有症状者への検査 ⇒当面はPCR検査と併用して使用 判定に急を要する救急搬送患者や感染疑いのある医療従事者への検査 ⇒一定の症状がある者を対象 早急な対応が必要な院内・施設内感染発生事例におけるクラスター防止のための検査 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 集団全体の感染状況の確認 公衆衛生研究 <p>※WHOは、臨床診断に用いることは推奨していない (研究と疫学調査目的で使用することを推奨)</p> <p>※抗体は感染から遅れて産生されるため、感染初期には陰性となってしまう可能性あり。</p>